

雨よけトマトの生産安定技術
—— 品種「桃太郎」の定植苗齢、水分管理、施肥法 ——

野菜花き部、環境部

1. 背景とねらい

本県の夏秋トマト栽培は雨よけハウスの導入により、生産安定と品質向上が図られ、さらに近年は完熟トマト品種「桃太郎」の普及拡大によって、高品質のものが生産されるようになってきた。

しかし、雨よけ栽培は長期どりが多いことから、中後期の着果不安定や、裂果等の障害果の発生が問題となっている。

このようなことから、土壌水分管理、施肥法等の生産安定技術について検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

2. 技術の内容

1) 定植苗齢

雨よけ栽培における定植苗齢は、本葉8葉（展開葉8葉、開花直前）とする
(表-1)。

2) 土壌水分管理

生育中後期（8月～10月）の着果安定のための土壌水分管理は、p F 2.0 前後を目標とする。灌水始点はp F 2.3 とし、4～6日間断でp F 1.8 まで灌水する（表-2）。

3) 窒素施肥法

雨よけハウスで、果菜が連年作付けされている圃場における窒素施肥基準は10a 当たり基肥12kg、追肥15kg（1回3kg、5回施肥）程度とする。堆厩肥の効果は高いことから、堆厩肥は、従来どおり基準量施用する（表-3）。

4) 適応地域 県下全域

3. 指導上の留意事項

- 1) 「桃太郎」は根の張りが弱いことから、草勢維持のため、根を深層に十分発達させる必要がある。そのためには、堆厩肥の施用（4 t / 10 a）、深耕2段施肥、排水対策の基本技術を励行する。
- 2) 4葉、6葉の若苗定植では収穫開始期が遅れ、減収し、10葉の老化苗では草勢が弱く、小玉が多くなる。
- 3) 1～3段の下段花房は着果が良好であり、過着果の場合は摘果を行い、1花房当たり3～4個の着果とし、中高段の着果を安定させる。
- 4) 生育前期の土壌水分は、p F 2.0～2.2 を目標とするが、活着後から初期（第3花房開花頃まで）は灌水を控え目にし、根の張りをよくする。
- 5) 生育中後期の多湿（p F 1.5～2.0）または、水分の少ない条件（p F 2.2～2.6）では良果数が劣り、裂果などの障害果が増加する。

6) 追肥の第1回目は、第1花房の果実が2~3cm大のころ行い、その後化成肥料の場合は約20日おきに、液肥の場合は、7~10日おきに施用する。

4. 当該事項にかかる試験研究課題名 (省略)

5. 参考文献・資料 (省略)

6. 試験成績の概要

表-1 定植苗齢と収量 (株当り)

区名	良果		障害果		障害果 (個)	合計果 (個)	良果1 個平均 重(g)	10a当り 収量(良果) (kg)	同左比 (%)
	個数 (個)	重量 (g)	個数 (個)	重量 (g)					
1. 4葉	14.7	2,885	5.2	514	6.8	26.7	196.3	7,124	90
2. 6葉	13.5	2,652	5.4	477	6.1	25.0	196.4	6,835	86
3. 8葉	15.6	3,205	5.5	476	6.3	27.4	205.4	7,914	100

表-2 土壌水分と収量 (株当り)

区名	良果		格外果		障害果 (個)	合計果 (個)	良果1 個平均 重(g)	10a当り 収量(良果) (kg)	同左比 (%)
	個数 (個)	重量 (g)	個数 (個)	重量 (g)					
水分多湿	11.0	2,039	4.4	426	7.3	22.7	185	5,034	73
“中湿	15.0	2,778	3.8	358	6.7	25.5	185	6,859	100
“少湿	12.3	2,250	3.9	367	5.3	21.5	183	5,556	81

表-3 施肥と収量 (株当り)

厩肥	基肥+追肥		良果		格外果		障害果 (個)	合計果 (個)	良果1 個平均 重(g)	10a当り 収量 (良果kg)	同左比 (%)
	N	N	個数 (個)	重量 (g)	個数 (個)	重量 (g)					
4t	標12+15		13.0	2,536	2.1	221	7.0	22.1	195	6,260	118
	12+15		12.3	2,453	2.4	254	6.9	21.6	199	6,056	114
	12+30		11.7	2,280	2.9	296	8.5	23.1	195	5,629	106
	6+15		11.2	2,181	1.2	113	9.1	21.5	195	5,384	102
	6+30		10.8	2,075	2.2	230	7.9	20.9	192	5,122	97